社会保障Ⅰ　7月17日（木） 3限目13：00～14：30 　リアクションペーパー＃11

学科名　　　　　　　　　学年　　　　学生番号　　　　　　　氏名

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

【社会保険の概念と範囲】年金保険、医療保険、介護保険と被用者の社会

第４章社会保険・社会扶助・民間保険の関係　第１節　保険と扶助の考え方

に関して、以下の記述のうち、明らかに間違っている記述を選んで（１つとは限らない！）、間違いの箇所に下線を引いて、その番号に番号に◯を付けなさい。

1. 保険の主要な機能としは①リスクを分散する②リスクに備える③リスクを予防する④リスクを回避するの４つが挙げられる。
2. 民間保険には生命保険や損害保険などがあり掛け捨てが原則だが積立型もある。
3. 扶助の主要な機能としては①助ける②救済するの２つが挙げられる。政府が用意するものであり、一般財源（公費負担）による給付をいう。民間企業の家族手当、住宅手当、残業手当などは扶助とは呼ばない。
4. 社会保険とは保険方式を用いた社会保障制度であり、日本では①年金保険②医療保険③介護保険④雇用保険⑤労災保険⑥生命保険の６つが挙げられる。
5. 社会扶助とは、扶助方式（税）を用いた社会保障制度をいう。
6. 社会扶助では一般的に資力調査または所得調査（所得制限）が行われる。
7. 日本の社会扶助は、公的扶助であり、その代表は生活保護であり、資力調査が行われる。
8. その他の社会扶助としては、児童手当、児童扶養手当、無拠出年金（最低保障年金）、失業扶助（求職者給付）、住宅扶助（住宅確保給付金）などがあり、生活保護と同じく資力調査に基づく所得制限がある。
9. 保険はリスク（危険）を分散する仕組みである。
10. 損失のリスク（可能性）としては、病気、障害、老化、失業、労働災害が挙げられるが、結婚・出産・子どもの進学などもは支出やケアなどの負担がリスクがあり、保険の対象となる。
11. 保険は損失が発生する回数や可能性（蓋然性・確率）に応じて適用される。
12. 保険の原則としては①リスクに規則性があること。②収支が保たれること（収支相等の原則）、③負担と給付が対照であること（給付反対給付均等の原則）の３つが挙げられる。
13. 保険はハイリスクグループを制限した方が儲かるが、福祉的観点からはハイリスクの人ほど保険に加入してリスクに備える必要がある。
14. 保険の逆選択の可能性とは、ハイリスクな人がリスク（負の情報）を隠して加入することにより、給付の多発し、保険料が上昇。結果的に低リスク者の加入が減少し、さらに保険料が上昇するという、悪循環に陥ることをいう。
15. 保険には情報の非対称性という問題もある。具体的には加入者が本人情報を秘匿する可能性や、保険者側は統計・専門情報などの点では加入者より遥かに優位に立つ。
16. 保険のモラルハザード問題としては、手厚い失業保険制度により高い失業率が常態化すなどの例が挙げられる。

定期試験の予行演習

　定期試験では、以下のような問題（社会福祉士の国試の形式）を10問。出題します。１問10点なので、６問以上正解すれば合格ですが、５問以下の場合）は再試になります（リアクションペーパー最大10点加点でセーフになることもあります）。

★10問中5問は過去問の順番と正解を入れ替える予定なので要注意。

問題10　社会保険と公的扶助に関する次の記述のうち、最も適切なものを 1 つ選びなさい。第34回（令和3年度）社会福祉士国家試験　試験問題　問題51）

1. 社会保険は特定の保険事故に対して給付を行い、公的扶助は貧困の原因を問わず、困窮の程度に応じた給付が行われる。
2. 社会保険は原則として金銭給付により行われ、公的扶助は原則として現物給付により行われる。
3. 社会保険は救貧的機能を果たし、公的扶助は防貧的機能を果たす。
4. 社会保険は事前に保険料の拠出を要するのに対し、公的扶助は所得税の納付歴を要する。
5. 公的扶助は社会保険よりも給付の権利性が強く、その受給にスティグマが伴わない点が長所とされる。